

石クリ通信

6月号

フューズフリー

事務 吉田 政子

5月に入り震度4の地震が日本各地で多発しています。こんなに続くと備蓄品や非常時の持ち出し袋が、急に気になり出します。

そういえば、前回はいつ中身の確認をしたかなあ？と…。案の定、中身は季節的に必要のないものや賞味期限が過ぎた食品などが入っていました。中身を入れ直すため、どんなものを入れたら良いのか調べてみると、「フューズフリー」という文字が目につきました。災害のためだけに備えない防災のことらしいです。

「フューズ」とは、日常時（いつもの暮らし）と非常時（災害等が起こったとき）の区別のことで、「フリー」とは、なくすと言う意味になります。その代表的なものが「ローリングストック」で普段食べている食品を少し多めに買って置いて、古いものから順に食べていきながら、一定量備蓄していく方法らしいです。この方法ならば、大幅に賞味期限を過ぎてしまった食品を罪悪感を感じながら破棄することもなくなるので、これからは、「フューズフリー」とやらを実践してみようと思います。

五月人形

看護師

太田 小百合

三十年前の息子の初節句に、義父母から頂いた五月人形も、ここ数十年は誰にも見てもえす押入れの中。息子のために買ってくれたものであり、売ったり捨てたりもできなく、どうしようかと…。ふとテレビをつけると、大谷翔平がホームランを打った後、ベンチに戻り、兜をかぶっているではありませんか！「おお！これはいい」と思い、兜のみ取り出して飾り台に置いてみました。これで一年中観ることができるぞ。と満足したのですが…。さて残された人形はどうしよう…。



朝の楽しみ

看護師

澤田 彰子

日中暑くなってきたので犬の散歩を早朝に切り替えました。早朝の静かなうちに散歩をすると、色々な鳥の鳴き声が聞こえてきて、早起きの辛いのも半減します。ただ残念な事は、鳥の知識がないので、どんな鳥がいないのか分かったらもっと楽しめるだろうなあ…。

時々ばあばと呼ばれます。

事務 森 多加子

先日、甥がお嫁さんと今年5歳になる男の子を連れて久しぶりに遊びにきました。初めて遊びに来た時は恥ずかしそうにモジモジしていたのですが、今ではすっかり懐いてくれてとても可愛いです。甥は私のことを幼い時から「たあちゃん」と呼ぶので甥の子も私を「たあちゃん」と呼ぶのですが、時々「ばあば」と呼ぶことがあります。確かにそう呼ばれてもおかしくない歳ですが、「違うでしょ。たあちゃんでしょ！」と5歳の子にむきになってしまっています。申し訳なさそうに「たあちゃん」小さな声で呼び直します。

創造するエネルギー

院長 石川 悟

今年のゴールデンウィークは、久しぶりに松本に出かけました。北関東自動車道を通って、それほど渋滞もなく約4時間のドライブでした。新型コロナも落ち着いてきたこともあり、松本市内は大混雑、特に松本城は見学者が列になっていました。今回、学生時代から続いている弦楽四重奏団の五十年ぶりの松本公演を行いました。ベートーヴェンやラベルなどを演奏、予想より多い60数人のお客さんが来てくれました。演奏のレベルは別として、七十歳前後のメンバーの熱演に大きな拍手をもらいました。

二日後には信州大学OBOGオーケストラの演奏会があり、こちらは観客として参加しました。五十歳以上も年齢離れた百人近いOBたちが、一日半の練習をして、チャイコフスキー交響曲第五番のレベルの高い演奏を披露、一人ひとり本当に音楽が好きで、演奏に大きなエネルギーを傾けているのが分かりました。半日だけ予定が空いたので、美ヶ原高原に車で登り、野外にある高原美術館を見に来ました。まだ雪が残る、非常に風が強く快適とはとても言えない中、多くの作品を見て回りました。風の力で動く展示物、巨大な鋼鉄の作品、滑らかに磨かれた抽象的な石の塊など、ふだんの生活では出会うことのない作品に接すると、作者の表現したかった思いなどは理解できなくても、創造するエネルギーを強烈に感じることができました。OBOGの立食パーティーでは、昔話や家族のこと、所属している演奏団体のこと、新しく楽器の演奏を始めたことなど、話が盛り上がり、予定の終了時間を過ぎて、なかなか帰る人がいなくて、幹事が焦る一場面もありました。



ソッキー訓練その後

事務長 石川 都

ソッキーの訓練開始から半年が過ぎた。先生のかなり厳しい指導のおかげで、暴れん坊もだいぶ落ち着いてきた。最近では、毎朝家の前を通って登校する孫たち小学生を、門の前で静かに座って見送れるまでに変わった。犬好きな子が撫でて、座ったまま尻尾を振り、尻尾の先で地面を掃いている。最初の頃の、見えるもの聞こえるもの全てに過敏に反応し、四方八方に勢いよく飛び回って大変だった日々を思うと、隔世の感がある。訓練の先生からも、これまで多くの犬を訓練して来たけれど、こんなに大変な子はそういませんでした。と変なお墨付きをもらったほどである。

今でも訓練時に散歩用チェーンをつけ、先生と一緒に歩くと、私でなく先生ばかり気にしている様子がありありで、私は完全に甘く見られている。それでも最近は、どんなに興奮して暴れていても、私が指示すると落ち着いて座り、動かずにじっとしているようになったのは、かなりの進歩である。犬は人をしっかりと見ている。と言われるが、確かに家族に対するソッキーの態度は、一人ひとりかなり違い、なかなか興味深い。犬好きと叱らないのと愛情深いのは違う。してよいこと悪いことの区別がちゃんとつき、互いの思いが通じること、結果的に犬も人も安心し、初めて真の信頼関係が生まれるようだ。

訓練の先生といくと、意思疎通も主従関係も貫壁で、まるで警察犬のようである。今後の課題は、家族にもそうできるか。の一言に尽きる。ソッキーのように、生来知覚過敏で敏感な犬も、半年でここまで矯正ができることに、訓練というもののスゴさを改めて感じ、私自身もいろいろ学んだ日々だった。

どぶ汁

看護助手

柴田 さち子

今回、孫の誕生会と母の日のお祝い会を、娘たち家族が開いてくれました。前回孫たちが初めて食べたくて衝撃を受けた「どぶ汁」を、また食べたいと言うので食べに行きました。あんきもをたっぷり使い、ネギ、ダイコン、あんなこの身を、みそ味の濃厚な鍋にし、具を食べた後の汁にご飯を入れて煮込むと、味がよく染みて美味しかったです。値段もちょっと高めなので、また一年後にみんなでお食べに行きましょう。

